

工業「実習」	単位数	3単位
	学科・学年	建築科・第3学年

## 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1 材料実験を通して鉄筋やコンクリートの知識を把握させる。 2 木製岡持ちの製作を通して、ものづくりの基本的・専門的な技術を習得させる。 3 CADの専門分野に関する技術を実際の作業を通して総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	新版建築実習1・新版建築実習2（実教出版）

## 2 学習計画及び評価方法等

### (1) 学習計画等

期学	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	考 査
1 学期	1 木材加工・岡持ちの制作 (1) 墨付け・切断 (2) 組み立て (3) 打ち付け 2 CAD実習 (1) 3DCADの活用 (2) 住宅の設計	4	・木材の性質を理解させ、大工道具の使用方法、木材加工、組立の要領及び塗装方法を体験的に学習する。  ・卒業設計に備え、3D-CADを使ったRC造の描き方を覚える。	
		5		
		6		
		7		
2 学期	3 材料試験 (1) コンクリートの調査設計 (2) スランプ試験 (3) 圧縮試験 (4) 鉄筋の引張試験 (5) 骨材の表面水率試験 4 CAD実習 (1) 卒業設計平面図作成	8	・材料試験を通し、コンクリートが圧縮、鉄筋が引張に強いことを理解し、鉄筋コンクリート構造が成り立っていることを学習する。  ・JWCADの使い方学習。	
		9		
		10		
		11		
		12		
学 期	(2) 卒業設計各種図面の作成 5 模型制作 (1) 紙模型の制作	1	・模型を制作することにより、立体的な感覚を養う。	
		2		

### (2) 評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中して作業に取り組み、自主的に理解しようとするか。</li> <li>・能率的に作業を進め、課題作品の提出期限を守るか。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CADシステムや建築の専門的な知識と技術を活用し、それを適切に判断し、創意工夫をする判断を身に付けているか。</li> </ul>
技 能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CAD、建築材料、ものづくりなどの専門的な技術を身に付け、仕事を合理的に計画し、適切に処理できるか。</li> </ul>
知 識 ・ 理 解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連した知識の習得をし、試験方法や設計・製作・検査の方法や流れを理解しているか。CADシステムを使用し作図することができるか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価は、小テストやレポートの評価を基準として上記の4つの観点を含めた授業の諸活動(課題作品)や出席状況などにより総合的に評価する。</li> <li>・学年末の成績は、第1学期から第3学期の成績をもとに総合的に判断して評価する。</li> </ul>	

### 3 確かな学力を身に付けるためのアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築実習は実験・実習など細かい作業が多いので、実習内容を十分に理解し、根気強く丁寧に作業をしなければなりません。技術を向上させるため、班に属して行うことが多いので、チームワークによる協力の態度を養い規律を守り、技術に必要な資質を体験的に理解し身に付けましょう。</li> <li>・建築実習では、各テーマごとにレポートや課題作品の提出が必要になります。授業で実験したことや得られた知識・技術をレポートとしてまとめることは、学習内容を確認し理解を深めるので、必ず期限までに提出しましょう。</li> </ul>
--